

# 実録・夜の図書館

2012年2月18日。夕闇とともに、挑戦者たちは館に集った。その数、16名。…早くもたどり着けなかった者がいるようだ。

迎えるは、3人の語り部たち。紡ぎだすは、東西に伝わる黄泉語り。指輪を求め迫り来る亡者、深山に潜む化け猫、人を溶かす妖しの草、滝より襲いかかる怪異…。挑戦者たちの表情も恐怖に強ばる。

しかし、無情にも時を告げる鐘は鳴り、挑戦者たちを知の迷宮へと追い立てた。暗い館内を抜け、たどり着いた先は本・本・本…。鶴舞中央図書館が誇る、80万冊近くを収める書庫である。挑戦者たちは、棚番号のみを記した地図と、本の背表紙に貼られた請求記号（『ごちゃっと』第4号の「シカクニト！」第1回を参照）を頼りに、指定された本に隠された暗号を探し出さねばならない。

念入りにルートを確認し、知の迷宮へ踏み出していく挑戦者たち。だが、地図を見間違えたのか、見当外れの方角へ突き進む者もいる。時折響く悲鳴は、一体何に出会ったのか。挑戦者たちは果たして無事なのか!?



まずはルート確認！



なんか違うかも…？

やがて、笑顔で生還した挑戦者たちの手には、見事探し当てた暗号があった。挑戦者たちには、惜しみなき賞賛と図書館の秘宝(?)が贈られた。挑戦者たちは言う。「もっと探検したかった!」と。されば、きっとまたいつの日にか、夜の図書館は開かれるであろう。その時には、新たな若者たちの挑戦を待っている。

## 編集後記

●ネコを飼いはじめて2ヶ月。なついてくれる気配がない。たのむよポッケ、一度でいいからモフモフさせてください。(生) ●読んだ本の感想をブログで「イマイチだった」と書いたら、作者ご本人からコメントが…!(夜) ●8年間はき続けているスニーカーの底について穴が。雨の日は困るけど愛着がありすぎて買い替えの踏ん切りがつかない。(mt) ●寒い日には「ゆず茶」が私のお供でしたが、そろそろお別れの季節かな?(忍) ●卒業式があり、来月にはクラス替えありで…悲しかったり嬉しかったりでみんな落ち着けない気分ですよね。(む) ●大学の先輩と後輩が福岡にいるというので遊びに行くことに。編集委員にも福岡出身が2人。なんか縁づいてる?(弓)

# ごちゃっと

ティーンズ広報紙 第20号

2012年3月1日発行

発行：名古屋市鶴舞中央図書館

Tel 052-741-9811

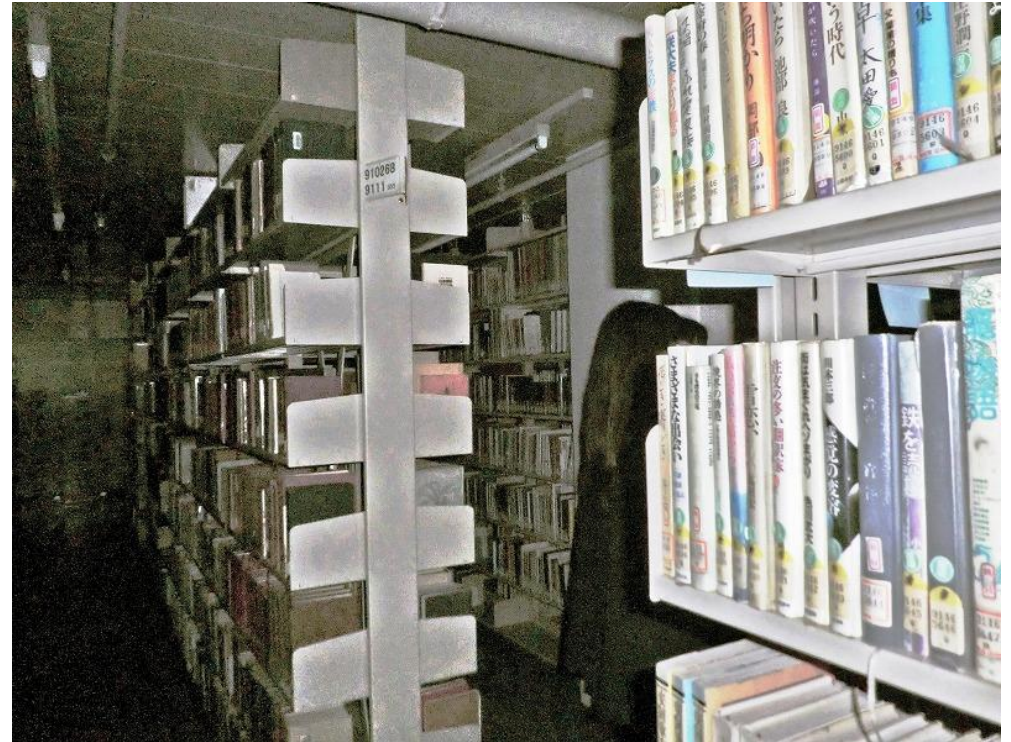
Fax 052-733-6337

<http://www.library.city.nagoya.jp/>

～読書でふくらむ子どもの夢～

## 特集①大災害から1年

## シカクニト!第4回 特集②図書館の特別整理期間って何?



巻末特集：実録・夜の図書館

♪この印刷物は古紙パルプをふくむ再生紙を使用しています。♪

## 質問：図書館の特別整理期間って何？



# 大災害から1年

2011年3月11日に発生した東日本大震災から1年になります。



昨年は被災の瞬間やその後の被災地を撮影した写真集が、たくさんの報道機関から出版されました。

『東日本大震災 特別報道写真集』共同通信社

『東日本大震災 報道写真全記録 2011.3.11-4.11』朝日新聞出版

『写真記録 東日本大震災 3・11から100日』毎日新聞社

『東日本大震災 読売新聞報道写真集』読売新聞東京本社

## 備えておこう

名古屋も、何十年も前から「東海地震」が警戒されている地域。大災害は決して他人事ではありません。知っておくことも、備えになることです。

『日本人が知りたい巨大地震の疑問50』島村英紀／著 ヴトバンククワイティ

日本は地震の多い国。だからこそ、地震のことを知って正しく恐れ、正しく対策をすることが大切。地震発生のメカニズムや、予知、情報、警報などについて知っておきたいもの。

『地震イツモノート』地震イツモプロジェクト／編 木楽舎

味のあるイラストで読みやすい、少し変わったこの地震防災マニュアルは、阪神・淡路大震災の経験を生かしてつくられている。「イツモ」できる備えや心構えを、私たちもおこう。



『「東日本復興応援」プロジェクト 届けたい! 伝えたい! 私たちからのメッセージ

ガールズ1000人のリアル震災体験』魔法のいらんど／編 アスキー・メディアワークス

「魔法のいらんど」によせられた、主に10代の女の子たちのリアルな声。特に被災地からよせられた声からは、地震!という時にどんなことがおこるのか、それに対してどう動けるのか、あるいは動けないのかが伝わってきます。

地震・津波以上に大きな影響をもたらしたのが原発。処理も終わっていないし、影響はいまなお続いている。そしていろんな立場や考え方があって、解決は容易ではない。自分たちひとりひとりが、みんなで話し合ったり、複数の情報を確認することで知識をもち、しっかりと考えていかなければいけないことです。

## いま、私にできること

いてもたってもいられない、何かしたい!でも被災地は遠いし、自分には何ができる?

『高校生、災害と向き合う 舞子高等学校環境防災科の10年』諏訪清二／著 岩波書店

兵庫県立舞子高校にある、全国で唯一の「環境防災科」。そこで学ぶ生徒たちは、被災地でさまざまなボランティア活動に取り組みました。現地での体験や注意点のほか、実際に被災地に行けなくても(そのほうが圧倒的多数!)できる活動についても解説されています。



## 伝えるコトバ、伝わるコトバ

テレビが見られない、電話が繋がらないなどの状況の中、比較的強かったのが電子メールや、ツイッターなどのソーシャルネットワークシステム(SNS)。人々の安否や被害状況を伝えたり、勇気づけるためさまざまなメッセージがとびかたりしました。



『PRAY FOR JAPAN』prayforjapan.jp／編 講談社

ツイッターに投稿された「prayforjapan(日本のために祈る)」という海外からのメッセージ。ぞくぞくと届いた応援メッセージや、前向きになれるような温かいエピソードを集めた1冊。

『災害時ケータイ&ネット活用BOOK』西田宗千佳／著 朝日新聞出版



これまでの災害時の社会状況と比べて大きく変化していたのが、インターネットや携帯電話の進歩だと言われる。安否確認や情報入手のための活用法をチェックしておこう。

『検証 東日本大震災の流言・デマ』荻上チキ／著 光文社

一方、不正確だったり悪意がこもった情報も、ツイートされたりチェーンメールとして広がった。善意からのものでも、誤った情報は混乱をもたらす。なぜデマは広がるのか、防ぐにはどうしたらいいのか。誤った情報を見抜く力は、普段から身につけておきたい。

『放射線のひみつ』中川恵一／著 朝日出版社

『みんなが知りたい放射線の話』谷川勝至／著 少年写真新聞社

『放射線になんか、まけないぞ!』坂内智之／文 太郎次郎社エディタス

『14歳からの原発問題』雨宮処凛／著 河出書房新社

『僕のお父さんは東電の社員です』毎日小学生新聞／編 現代書館



# 新刊紹介 *New Arrivals*

## 『鷹匠は女子高生!』 佐和みづえ/著 汐文社

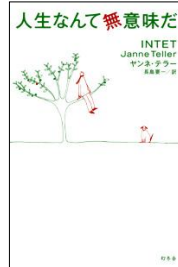


佐賀県武雄市に住む石橋美里さんは、普段はどこにでもいる17才の女の子。けれど、実はもうひとつ別の顔を持っているのです。それは、日本でただひとりの女子高生「鷹匠」というもの。「鷹匠」とは、タカなどの猛禽類を飼いならし、狩りなどに使う人のこと。美里さんと仲間の猛禽たちとの生活を少しのぞいてみましょう。(忍)

## 『人生なんて無意味だ』 ヤンネ・テラー/著 幻冬舎

「意味のあるものなんて何もない」

ピエールの言葉を聞いたとき、わたしたちは気づいてしまった。とっくにそれを知っていて、ただ知らないふりをしてきたことに。だから、わたしたちは「意味の山」を作る。ピエールのようにならないように。(夜)



## 『くちびるに歌を』 中田永一/著 小学館



女子だけで活動していた島の中学合唱部にきた、産休代替の柏木先生。その美しさにつられて男子がぞくぞく入部。はじめて混声合唱に取り組むことになるも、なかなかうまくいかず…。アンジェラ・アキさんの曲「手紙～拝啓 十五の君へ～」をモチーフにした作品。『拝啓 十五の君へ』や『未来への手紙』とあわせて読んでみて。(弓)

## 『願かけ木コの日』 那須田淳/作 学研教育出版

死んじゃったけど6日間だけ生き返れることになったコースケ。でも、その間に3つの願いを自力でかなえないと、あとでひどいバチがあたるかも、だって!? 三途の川の番ネコ・だっちゃんの助けを借りて、課題のクリアにいとむ!



## 『かぼちゃの下で』 桜木奈央子/写真・文 春風社

アフリカ・ウガンダの内戦で心や身体に深い傷を負った少年少女たち。言葉でつづられるその体験は壮絶なものであるけど、戦争のむごたらしい写真は一切登場しない。それだけに胸を痛めたり、悲しんだりするだけでなく、どうしてそうなってしまったのか、どうするべきかを考え、想像するきっかけにしてほしい。(mt)

## 『世界一わかりやすい楽譜の読みかた』 山下正/編著

### ヤマハミュージックメディア

バンドや吹奏楽とか音楽やってる人で、もっと楽譜に強くなりたいたい人におすすめです!!

STEP 1 誰にでも読めるカンタン楽譜

STEP 2 細かい楽譜も余裕でOK

などなど、あなたはどのページから読み始める? (む)



## 『ワンス・アホナ・タイム』 安東みきえ/作 理論社



この本のタイトルとは少し違うけど、ワンス・アホナ・タイム(Once upon a time)とは、英語で「むかしむかし、…」という意味でおとぎ話の冒頭でよく使われる言葉のこと。むかしむかし、どこかにいたかもしれない賢くてアホな王子様、お姫様たちのおかしくて少しトゲのある短いお話集。(mt)